

ULVAC VALUE REPORT 2024 目次

ULVACのDNA

- 5 ULVACの軌跡
- 7 ULVACの事業
- 9 ULVACの価値創造＜事業価値＞
ココニモ、アル。

読者の皆様に伝えたいこと

- 11 トップメッセージ

ULVACが目指すもの

- 15 ULVACの強み
＜未来につながる可能性の場であり続ける＞
- 17 ULVACの価値創造＜プロセス＞
- 19 ULVACの価値創造＜注力課題＞
- 21 ULVACのサステナブル経営
- 23 2050年にありたい姿の実現に向けて
- 25 中期経営計画の進捗

目指す姿を実現するために

- 27 真空技術をコアとしたイノベーションの創出・共創の推進
- 31 真空機器事業 ❶ 半導体製造装置 ❷ 電子部品製造装置
❸ ディスプレイ・エネルギー関連製造装置
❹ コンポーネント ❺ 一般産業用装置
- 36 真空応用事業 ❶ 材料 ❷ その他
- 38 事業を支えるモノづくりとカスタマーサポート
- 39 マテリアリティに関する取り組みの詳細
- 41 多様な人財の育成と活躍推進・レジリエントな組織づくり
- 45 バリューチェーンにおける人権尊重、責任ある行動
- 49 持続可能な地球環境への貢献

コーポレートガバナンス

- 55 コーポレートガバナンス
- 59 社外取締役メッセージ
- 63 マネジメント体制
- 65 リスクマネジメント
- 67 コンプライアンス
- 68 ステークホルダーの皆様とともに

財務データ／企業情報

- 69 11ヶ年財務・非財務データ
- 71 財務概況
- 73 連結財務諸表
- 77 会社データ／株式情報

編集方針

持続的成長と企業価値向上に向けた当社の1年間の取り組み、中長期的に目指す姿、経営姿勢を総括し、「ULVAC VALUE REPORT」として発行しています。
これらをステークホルダーの皆様にご理解いただくとともに、対話を深める重要なツールと位置付けています。

■ 発行：

2025年2月（前回発行2023年11月）

■ 参考にしたガイドライン：

IIIRC 国際統合報告フレームワーク
経済産業省 価値協創ガイダンス
ISO26000

対象範囲と期間

■ 対象範囲：アルバックグループ

本レポートにおいて、ULVACグループ全体を指す場合は「ULVAC」、株式会社アルバックを指す場合は「アルバック」と表記しています。

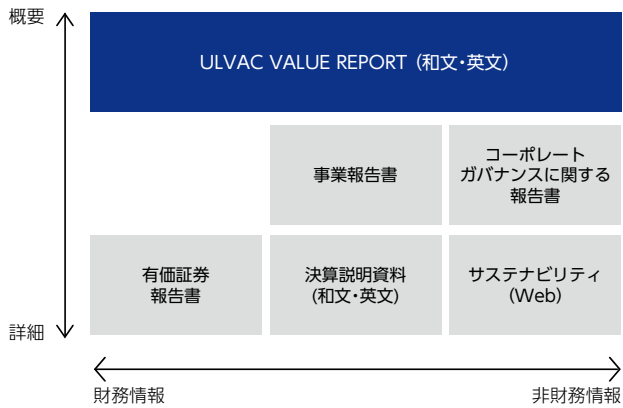
■ 対象期間：2024年6月期

（2023年7月1日～2024年6月30日：当社2023年度）
報告の一部に、2024年7月以降の活動と取り組み内容も含まれます。

＜免責事項＞

本レポートに記載されている表やグラフの数値は、四捨五入して表記しているため、合計値と異なる場合があります。また、対象範囲の拡大や算出方法の見直しに伴い、一部過年度データを修正している箇所があります。

ULVACのコミュニケーション



皆様のニーズに合わせたコミュニケーションツールをご用意し、最適な情報開示を行っています。
アルバックグループへのご理解を深めていただくため、決算情報を中心とした法定開示書類関係から、事業活動や経営戦略・財務情報に加え、企業価値を創出する上で欠かせない社会・環境への取り組み等の非財務情報を記載した本レポート等、さまざまなコミュニケーションツールをご用意しています。なお、Webサイトでも最新の情報を提供していますので、あわせてご覧ください。

真空

経営基本理念

アルバックグループは、互いに協力・連携し、
真空技術及びその周辺技術を総合利用することにより、
産業と科学の発展に貢献することを目指す。

経営方針

顧客満足 の 増進
生産技術 の 革新
独創的な商品開発
自由闊達な組織
企業価値 の 向上

ULVACは、私たちが目指す未来像を示すものとしてVision2032「未来につながる可能性の場であり続ける」を策定しました。創立以来、人のために、社会のために、地球のために、真空技術で貢献したいという使命を胸に事業を展開してきたULVACは、真空という無から生まれる未知の可能性を信じ、最先端技術を追求することで、持続可能で豊かな未来の実現に向けて取り組んでまいります。

1952年の創立以来、ULVACは真空技術とその周辺技術を総合利用することにより産業と科学の発展に貢献してきました。ULVACはこれからも、真空技術をコアに最先端のイノベーションの創出に挑戦し、新たな価値の創造に取り組んでまいります。

真空技術で産業貢献に賭けた夢への出発

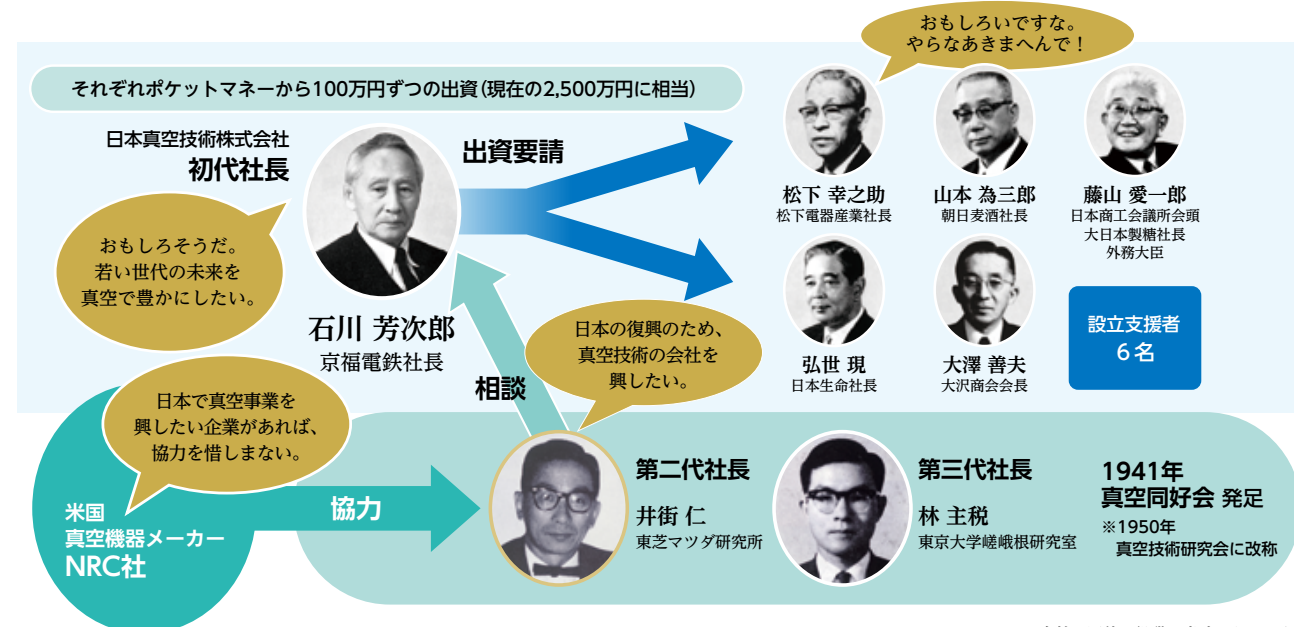
1952年、日本が戦後復興に乗り出そうという時代に、「真空技術で日本の産業に貢献しよう」と集まった井街仁(第二代社長)を中心とした若い研究者たちの熱い情熱に心を動かされた6人のエンジェルが出資して「日本真空技術株式会社」が誕生しました。

ULVACのコア技術「真空」とは

真空とは、一般に大気圧より低い空間状態のことを指します。真空状態には「物質の沸点が下がるため蒸発しやすくなる」「気体分子が空間を真っ直ぐ進むことができる」等の特性があります。ULVACはこのような特性を利用したさまざまな応用技術を発展させ、真空の極限を追求してきました。ULVACの社名は「Ultimate in Vacuum」のULとVACを合わせた造語で、真空の極限という意味に由来しています。

例えば、真空技術を利用すると、厚さ数 μm から数nmの極めて薄い膜を作ることができます。こうした薄膜は、材料を物理的に引き延ばして作ることができないため、真空中で原子や分子等の状態にして積層するという高度な真空薄膜形成技術が必要です。

現在、IoT、5G、AI等に代表されるデジタル社会の実現という大きな技術革新の波が来ています。このデジタル社会の実現を支える基盤技術には、必ず真空薄膜形成技術が活用されると考えています。



※会社、団体、役職は当時のものです。

社是について

日本真空技術(株)(現 (株)アルバック)は創立15周年の1966年7月、6か条(のちに7か条)からなる「社是」を制定しました。創立以来、不文律として経営の底を流れてきた理念を成文化したもので、経営層から従業員までにこの理念が浸透し、DNAが形成されました。

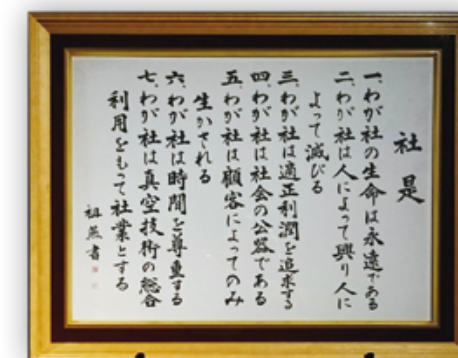
その後、グローバル化といった経営環境の変化とともに、1996年に「真空の極限を追求する事業を通じて、無限の価値の創造を顧客に提案するULVAC」として「経営基本理念」を制定しました。続いて、真空機器だけでなく材料、分析、サービスなどのソリューションを提供する企業グループとしての事業を推進するため、2001年に5つの「経営方針」を制定、2004年4月、東証第一部に上場しました。

「社是」は脈々と受け継がれ、2021年にその精神を「2050年にありたい姿」に込めて発表し、70周年の2022年には、それを実現する「Vision 2032」と「4つの重要課題(マテリアリティ)」を定め、会社の方向性を明確にしました。

真空技術で産業と科学の発展に貢献し続けてきた70年は、まだ通過点です。今もなお、創業者や先人の情熱は火と燃え、消えることなく、社是にある「わが社の生命は永遠である」という言葉とともに、生き続けていきます。

社是

1. わが社の生命は永遠である
2. わが社は人によって興り人によって滅びる
3. わが社は適正利潤を追求する
4. わが社は社会の公器である
5. わが社は顧客によってのみ生かされる
6. わが社は時間を尊重する
7. わが社は真空技術の総合利用をもって社業とする



ULVACは、産業発展に不可欠な存在となった真空技術のリーダーとして、革新を追求してきました。私たちは、お客様、そしてその先の社会問題を解決するため、果敢な挑戦を続けています。経営の核心は「人」であり、創業以来の「信義、誠実の原則」を守りながら、人材育成に注力しています。経営の安定と成長のためには、適正利潤の確保と技術の開発、そしてステークホルダーの皆様との信頼関係が不可欠です。私たちは今、「真空技術をコアとしたイノベーションの創出・共創」を経営の中心に据えてその真空技術の可能性を追求し、急速に変化するビジネス環境の中で時代の変化を先読みし、ステークホルダーの皆様との新しいビジネスの機会を探求しています。私たちはビジョンとして定めた「未来につながる可能性の場であり続ける」ことを胸に刻み、持続的な成長と社会的価値の創出を目指していきます。